

令和7年度

辻小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 思考力を伸ばす、書く活動の充実
- 伝え合い、学び合う、話す(話し合う)活動の充実

【小中連携における共通の取組】

次の授業の準備をして机の上を整理する。姿勢よく授業を受ける。勝手なおしゃべりはしない。先生の指示をよく聞く。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的・基本的な学習については、ある程度の習得が図られている。 ●学年が上がるにつれ読書量が減るとともに新聞を読む習慣は身に付いていない。	・ドリル学習に根気強く取り組み、自ら基礎的・基本的な学力を伸ばすことができる。 ・言葉の意味や文章表現を理解し、活用することができる。 ・初見の新聞記事をすらすらと音読することができる。	・様々な教育支援ソフトを活用し、基礎的・基本的な内容理解の定着を図る。 ・新聞等を活用して意味調べや言葉遊びを行い語彙力や読解力の基礎や音読力を高める。 ・対話的な学習が行えるよう児童のファシリテーターとしてのスキルを高める。	・新聞等を活用した学習方法について情報共有の機会を作り、授業に活かす。	・教育支援ソフトをほぼ毎日活用し、基礎基本の定着に努めることができた。(達成状況100%) ・週1回の朝活では新聞を活用した学習は行えたが、授業では十分実施できなかった。 ・ファシリテーションが定着するところまで指導することができなかった。	・新年度の早い段階において、全教員で新聞や「あわスタ」等の活用方法について研修を行い、全学年で足並みをそろえた指導を行う。 ・引き続き、ファシリテーションが定着する授業を構築するとともに、校内研修において教員のファシリテーションを高める。(授業研究会等をホワイトボードミーティングで行う。)

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いの中で、友達の意見と自分の意見を比較したり、質問したりして聞くことができる児童が多い。 ●自分の考えをノートにまとめたり、自分の意見を発表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。 ●友達と意見交流をしながら自分の考えを深めることをできる児童が少ない。	・学んだことを適切な表現方法を用いて表現することができる。 ・自分の考えや根拠を明らかにして論理的に説明することができる。 ・友達の意見をふまえて自分の考えを深めることができる。 ・新聞記事を読み、興味・関心のあるところに線を引いたり、感想を書いたり、記事を要約したりできる。	・授業の中に振り返りの時間を確保する。 ・書く活動を多く取り入れ表現力向上のための指導方法を工夫する。 ・対話的な学びを保障するために、会話の「型」を示したり、ホワイトボード等を活用したペア・グループ学習を行い友達の考えと比較しながら聞く場を設定したりする。 ・週1回朝の活動や自主学習で、「あわスタ」を効果的に活用し新聞の感想・要約を書く活動を継続して行う。	・「あわスタ」「新聞を活用した教育データベース」を参考にし、新聞を効果的に活用した実践を引き続き行う。	・授業での振り返りの時間は、ほぼ確保することができた。 ・自分の考え等を文章化する活動を多く取り入れた。また、教師が作文例を作成することで書くヒントを与えるとともに、活動のどこに困難さを感じるのかを事前につかむことができ指導に生かすことができた。 ・友達の発言に質問したり自分の立場を表明したりする活動を行った。特定の単元において、ホワイトボードを活用したグループ学習を行うことができた。 ・書く活動に新聞を効果的に活用することはできなかった。	・児童の表現力向上に向けて、校内研修で講師を招聘し、新聞等を活用した授業作りの指導を仰ぐ。 ・引き続き、授業において対話的な活動を効果的に取り入れるよう教師自身も授業力向上に努めるとともに、大研等で相互の授業参観を行い、学び合いの場をつくる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に対してまじめに取り組む児童が多い。 ○タブレット端末の活用は、児童の意欲や学習の定着につながっている。 ●家庭学習の時間や学習内容に個人差があり、不得意な学習内容を克服するために計画を立て、取り組むまでには至っていない。	・各教科において授業のめあてや課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・タブレットも活用した自主学習を通して、自己の課題に応じて学習や興味・関心のある事柄についての調べ学習に取り組むことができる。	・朝の学力アップタイム等で、タブレット端末の技能習得を図る時間を設けたり、学級の実態に応じた学習内容に取り組みせたりして児童の主体的な学びの育成につなげる。 ・「家庭学習の手引き」「自主学習ノートの型」「タブレット活用ルール」をもとに家庭での学習の方法を指導するとともに、手本となる自主学習ノートを掲示し、個人に合わせた学習方法を指導する。	・学年便り等で手本となる自主学習の内容を掲載し、家庭と連携して学習の意欲を高める。 ・頑張っている児童の取り組みを管理職が全校児童に紹介する。	・タブレット端末の技能習得を図る時間を確保することができた。作文や学習の成果物作りにおいてタブレットを効果的に活用することができた。 ・様々な手引きをもとにして家庭学習の指導を行うことができたが、全児童の自主学習の質を高めることはできなかった。	・全児童の自主学習の質の向上に向け、年度当初より管理職の先生方にも協力してもらい、手本となる自主学習を紹介・表彰するようにする。また、前後の学年で自主学習ノートを見せ合い、良い点を紹介し合う。